

2020/4/21

柏の景気情報(令和2年4月分)

柏 商 工 会 議 所

(本件担当) 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
T E L : 04-7162-3305
F A X : 04-7162-3323
U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報(令和2年4月分)

○ 調査期間 : 令和2年4月23日 ~ 令和2年5月13日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

<産業別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	70	44.9%
建設	44	17	38.6%
製造	33	13	39.4%
卸・小売	44	23	52.3%
サービス	35	17	48.6%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1増加他の回答割合 - 3減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【令和2年4月の業況についての状況】

4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲67.1(前月水準▲53.5)となり、マイナス幅が13.6ポイント拡大した。※リーマンショックの影響が残る平成21年11月(▲62.6)以来、10年5か月ぶりの▲60台となった。

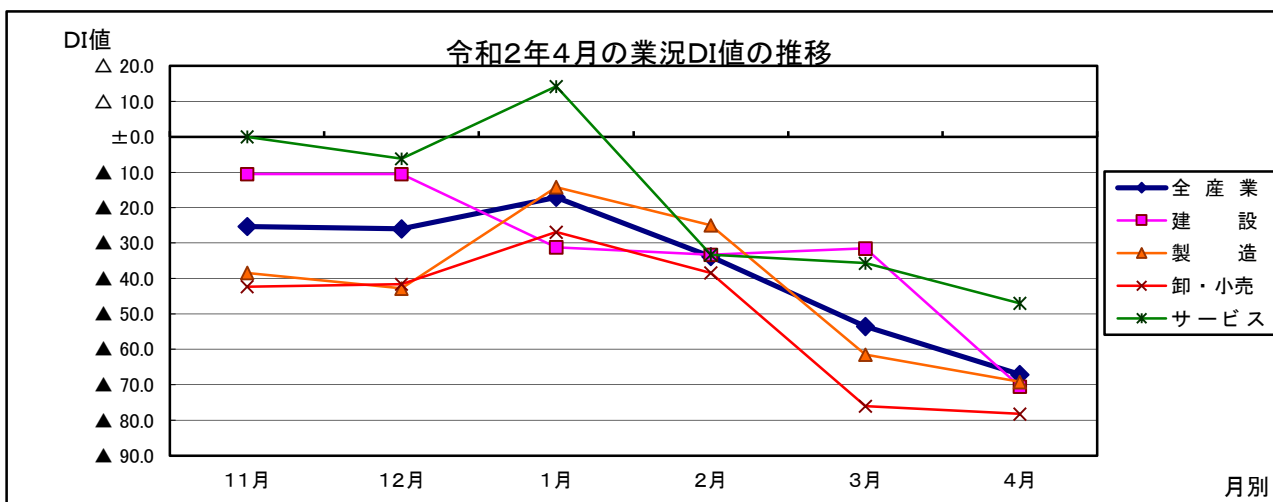
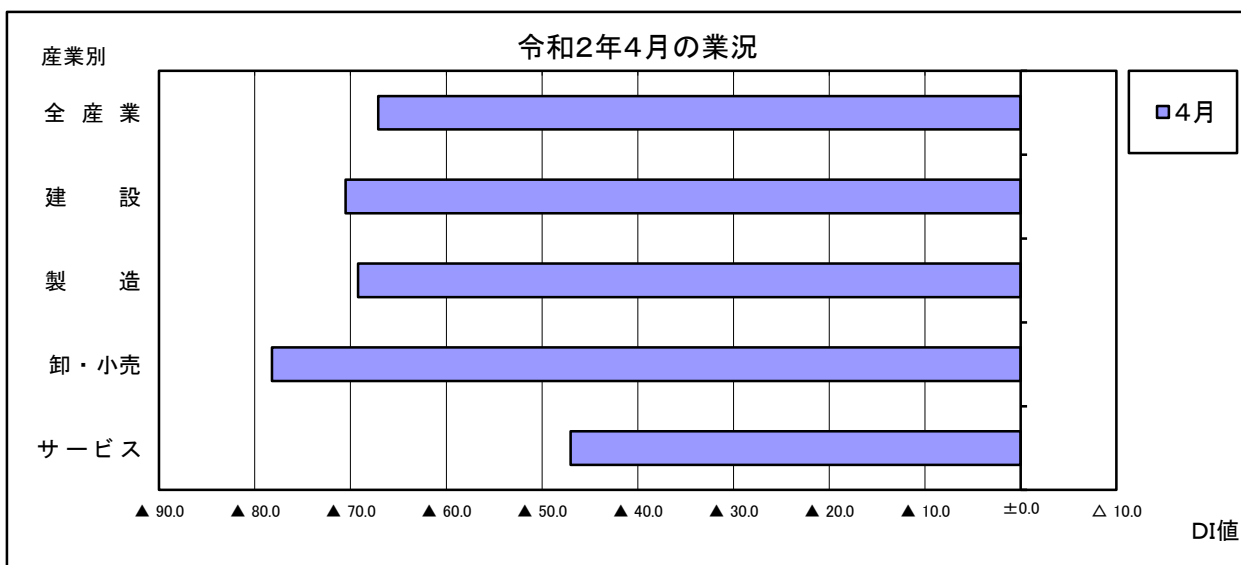
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲70.5(同▲31.5)、サービス業▲47.0(同▲35.7)、製造業▲69.2(同▲61.5)、卸小売業▲78.2(同▲76.0)である。

○向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲72.8(前月水準▲59.1)となり、マイナス幅が13.7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲82.3(同▲52.6)、サービス業▲64.7(同▲50.0)、製造業▲61.5(同▲53.8)、卸小売業▲78.2(同▲72.0)である。

令和2年4月業況DI値(前年同月比)の推移

	令和元年 11月	12月	令和2年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 4月~6月(5月~7月)
全産業	▲25.3	▲26.0	▲17.1	▲33.8	▲53.5	▲67.1	▲72.8(▲59.1)
建設	▲10.5	▲10.5	▲31.2	▲33.3	▲31.5	▲70.5	▲82.3(▲52.6)
製造	▲38.4	▲42.8	▲14.2	▲25.0	▲61.5	▲69.2	▲61.5(▲53.8)
卸・小売	▲42.3	▲41.6	▲26.9	▲38.4	▲76.0	▲78.2	▲78.2(▲72.0)
サービス	±0.0	▲6.2	△14.2	▲33.3	▲35.7	▲47.0	▲64.7(▲50.0)



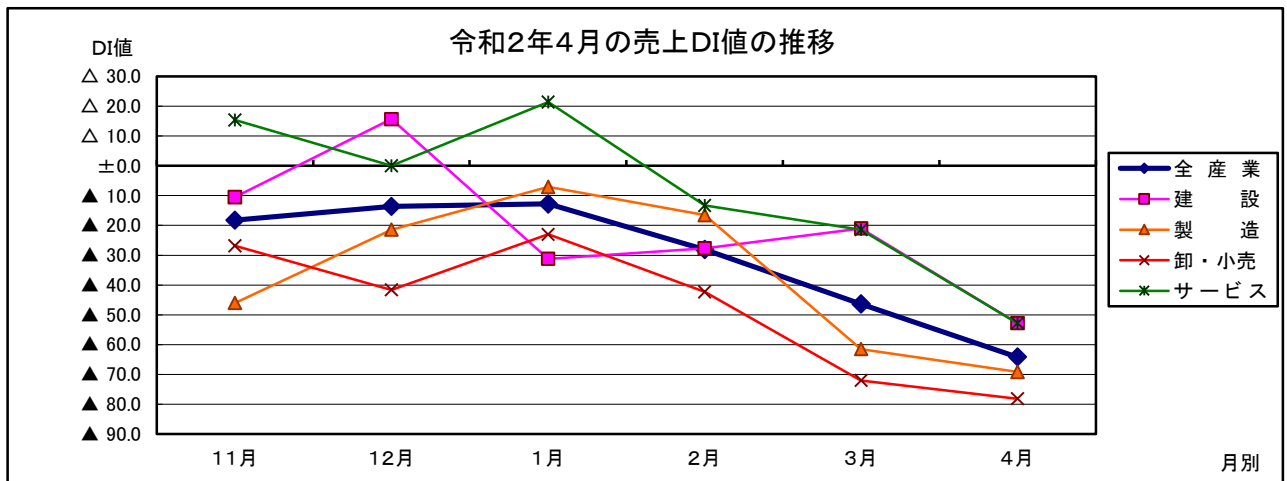
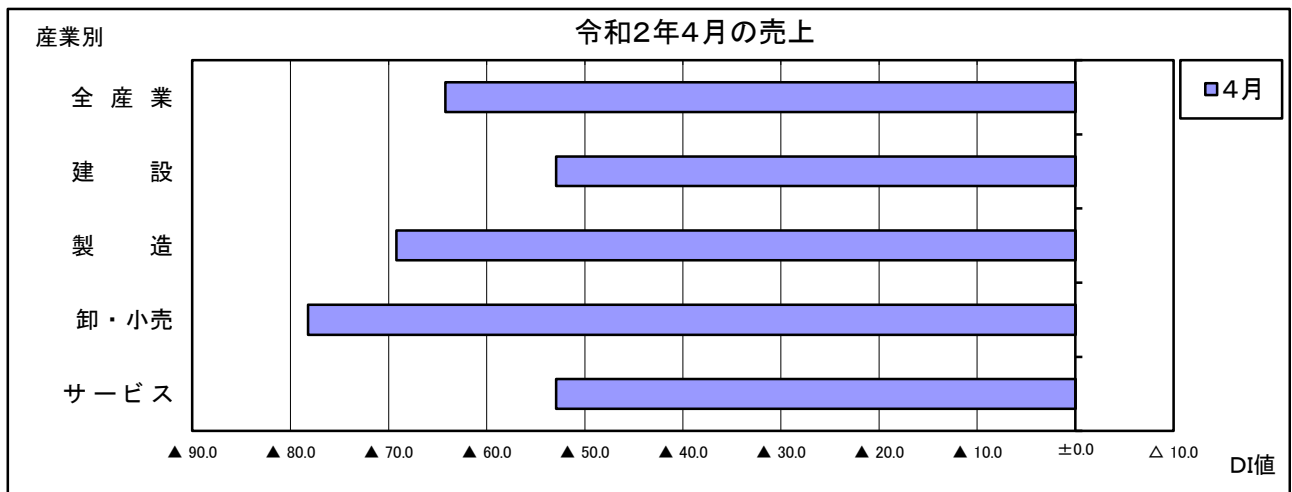
【令和2年4月の売上についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲64.2(前月水準▲46.4)となり、マイナス幅が17.8ポイント拡大した。
 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲52.9(同▲21.0)、サービス業▲52.9(同▲21.4)、製造業▲69.2(同▲61.5)、卸小売業▲78.2(同▲72.0)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲67.1(前月水準▲59.1)となり、マイナス幅が8.0ポイント拡大する見通しである。
 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲52.9(同▲64.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲76.4(同▲52.6)、製造業▲53.8(同▲38.4)、卸小売業▲78.2(同▲72.0)である。

令和2年4月の売上DI値(前年同月比)の推移

	令和元年 11月	12月	令和2年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲18.3	▲13.6	▲12.8	▲28.1	▲46.4	▲64.2	▲67.1(▲59.1)
建設	▲10.5	△15.7	▲31.2	▲27.7	▲21.0	▲52.9	▲76.4(▲52.6)
製造	▲46.1	▲21.4	▲7.1	▲16.6	▲61.5	▲69.2	▲53.8(▲38.4)
卸・小売	▲26.9	▲41.6	▲23.0	▲42.3	▲72.0	▲78.2	▲78.2(▲72.0)
サービス	△15.3	±0.0	△21.4	▲13.3	▲21.4	▲52.9	▲52.9(▲64.2)



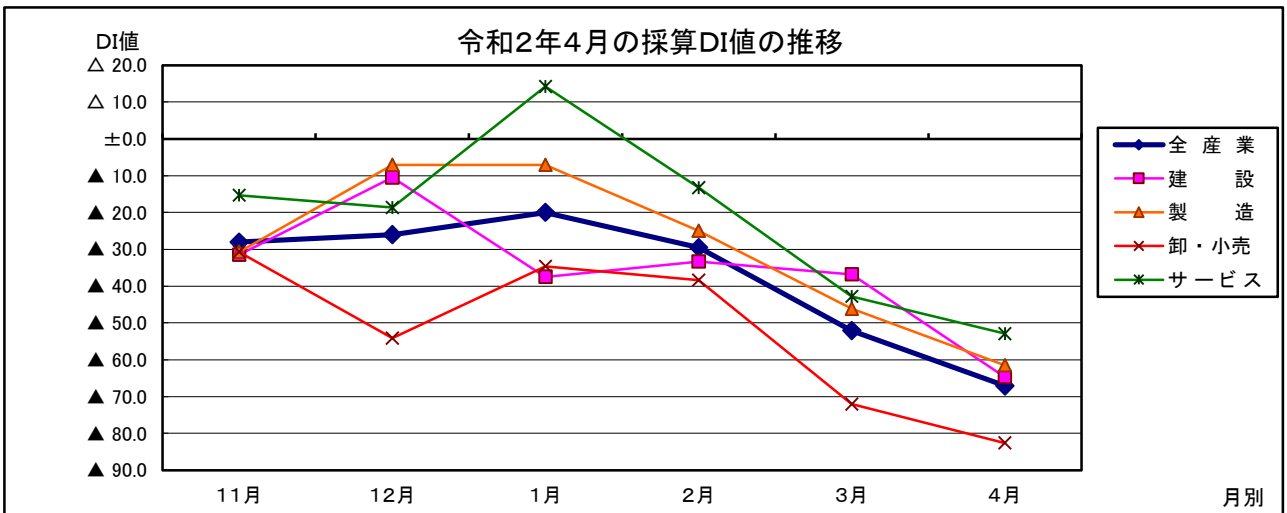
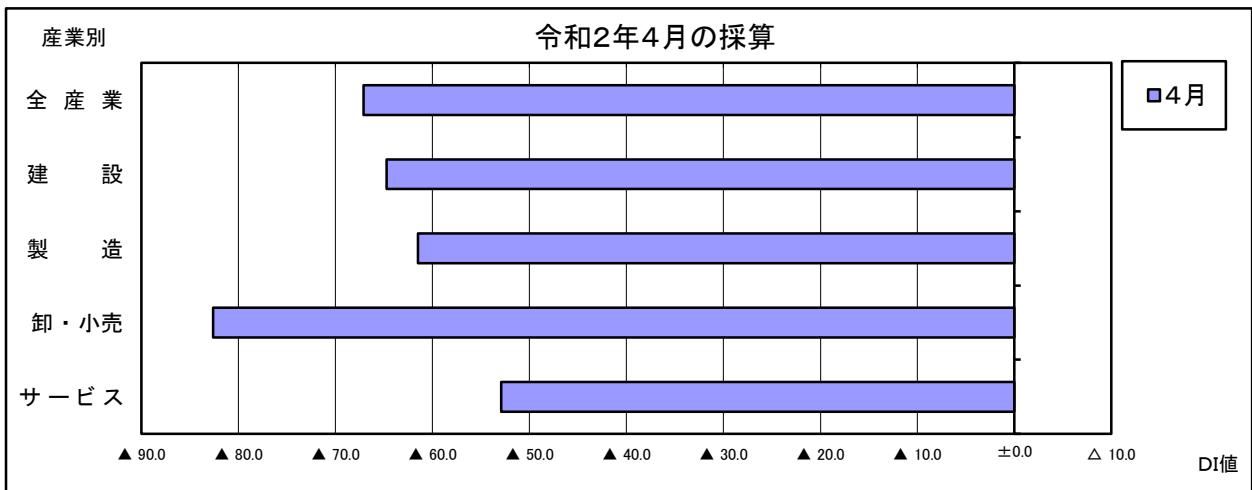
【令和2年4月の採算についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲67.1(前月水準▲52.1)となり、マイナス幅が15.0ポイント拡大した。
 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲64.7(同▲36.8)、製造業▲61.5(同▲46.1)、卸小売業▲82.6(同▲72.0)、サービス業▲52.9(同▲42.8)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲68.5(前月水準▲57.7)であり、マイナス幅が10.8ポイント拡大する見通しである。
 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲41.1(同▲64.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲82.3(同▲47.3)、製造業▲61.5(同▲46.1)、卸小売業▲82.6(同▲68.0)である。

令和2年4月の採算DI値(前年同月比)の推移

	令和元年 11月	12月	令和2年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲28.1	▲26.0	▲20.0	▲29.5	▲52.1	▲67.1	▲68.5(▲30.9)
建設	▲31.5	▲10.5	▲37.5	▲33.3	▲36.8	▲64.7	▲82.3(▲33.3)
製造	▲30.7	▲7.1	▲7.1	▲25.0	▲46.1	▲61.5	▲61.5(▲41.6)
卸・小売	▲30.7	▲54.1	▲34.6	▲38.4	▲72.0	▲82.6	▲82.6(▲34.6)
サービス	▲15.3	▲18.7	△14.2	▲13.3	▲42.8	▲52.9	▲41.1(▲13.3)



【令和2年4月の仕入単価についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲22.8(前月水準▲12.6)となり、マイナス幅が10.2ポイント拡大した。

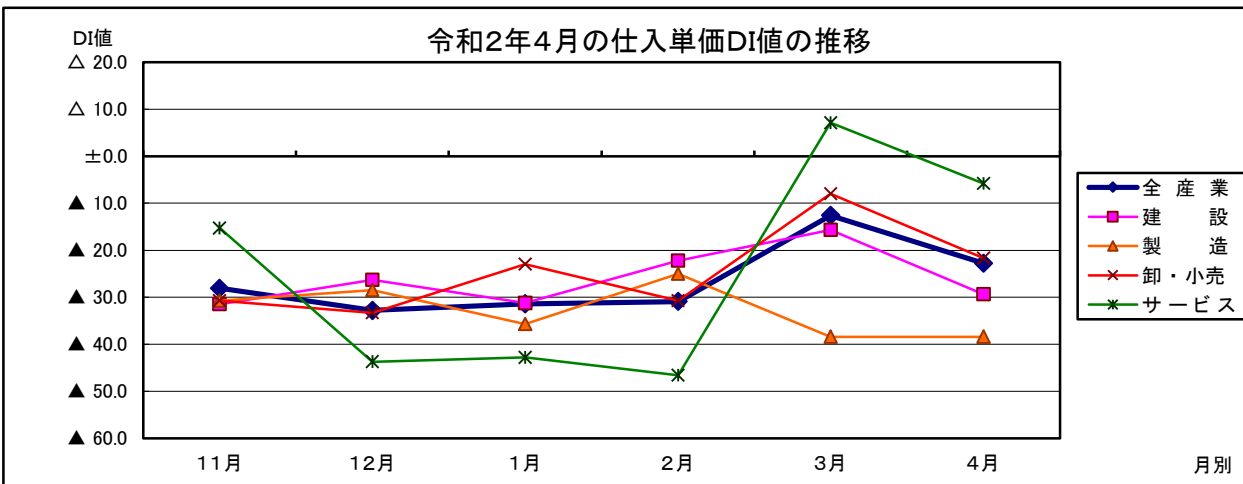
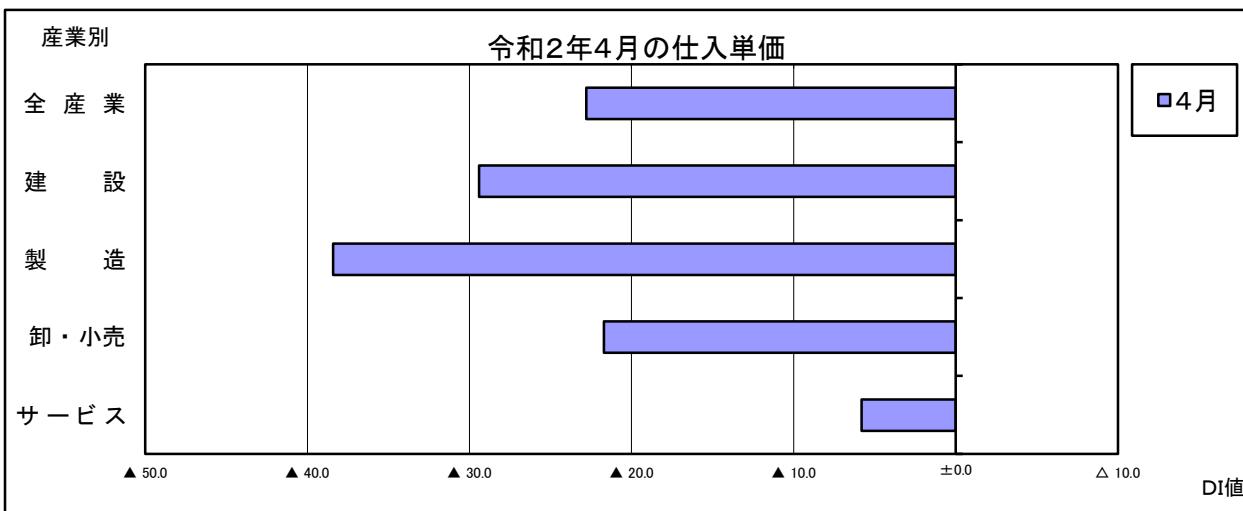
業種別では、前月水準と比べて、変らない業種は、製造業▲38.4(同▲38.4)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲5.8(同△7.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲29.4(同▲15.7)、卸小売業▲21.7(同▲8.0)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲24.2(前月水準▲14.0)となり、マイナス幅が10.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲23.0(同▲30.7)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲17.6(同△7.1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲30.4(同▲12.0)、建設業▲23.5(同▲21.0)である。

令和2年4月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	令和元年 11月	12月	令和2年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲28.1	▲32.8	▲31.4	▲30.9	▲12.6	▲22.8	▲24.2(▲14.0)
建設	▲31.5	▲26.3	▲31.2	▲22.2	▲15.7	▲29.4	▲23.5(▲21.0)
製造	▲30.7	▲28.5	▲35.7	▲25.0	▲38.4	▲38.4	▲23.0(▲30.7)
卸・小売	▲30.7	▲33.3	▲23.0	▲30.7	▲8.0	▲21.7	▲30.4(▲12.0)
サービス	▲15.3	▲43.7	▲42.8	▲46.6	△7.1	▲5.8	▲17.6(△7.1)



【令和2年4月の従業員についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲4. 2(前月水準△4. 2)となり、プラス幅が8. 4ポイント縮小した。

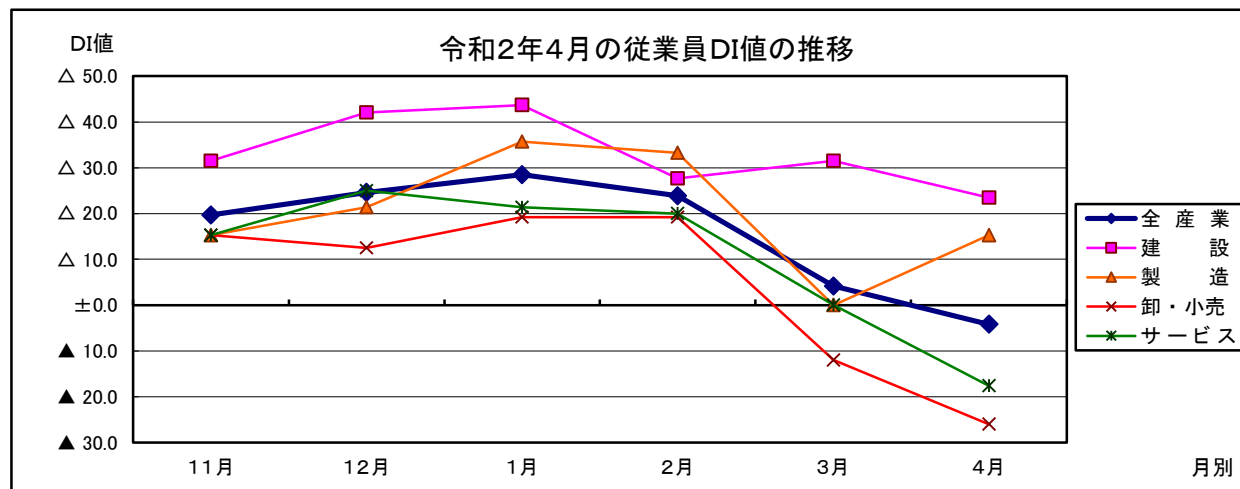
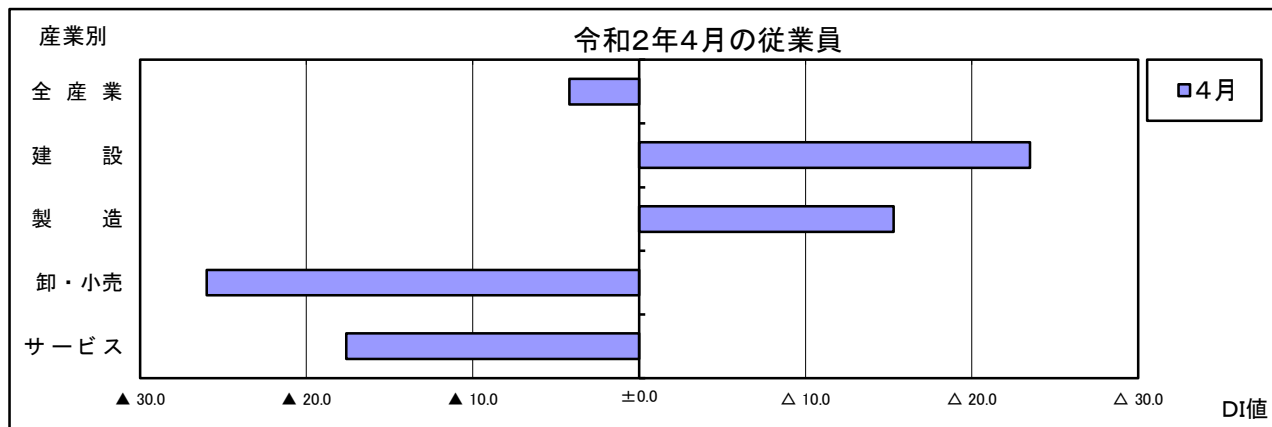
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業△15. 3(同±0. 0)である。プラス幅が縮小した業種は、建設業△23. 5(同△31. 5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲17. 6(同±0. 0)、卸小売業▲26. 0(同▲12. 0)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲7. 1(前月水準±0. 0)となり、プラス幅が7. 1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業△23. 5(同△21. 0)である。マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業△7. 6(同▲15. 3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲23. 5(同±0. 0)、卸小売業▲26. 0(同▲8. 0)である。

令和2年4月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	令和元年 11月	12月	令和2年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	△ 19.7	△ 24.6	△ 28.5	△ 23.9	△ 4.2	▲ 4.2	▲ 7.1 (±0.0)
建設	△ 31.5	△ 42.1	△ 43.7	△ 27.7	△ 31.5	△ 23.5	△ 23.5 (△ 21.0)
製造	△ 15.3	△ 21.4	△ 35.7	△ 33.3	±0.0	△ 15.3	△ 7.6 (▲ 15.3)
卸・小売	△ 15.3	△ 12.5	△ 19.2	△ 19.2	▲ 12.0	▲ 26.0	▲ 26.0 (▲ 8.0)
サービス	△ 15.3	△ 25.0	△ 21.4	△ 20.0	±0.0	▲ 17.6	▲ 23.5 (±0.0)



【令和2年4月の資金繰りについての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲40.0(前月水準▲21.1)となり、マイナス幅が18.9ポイント拡大した。

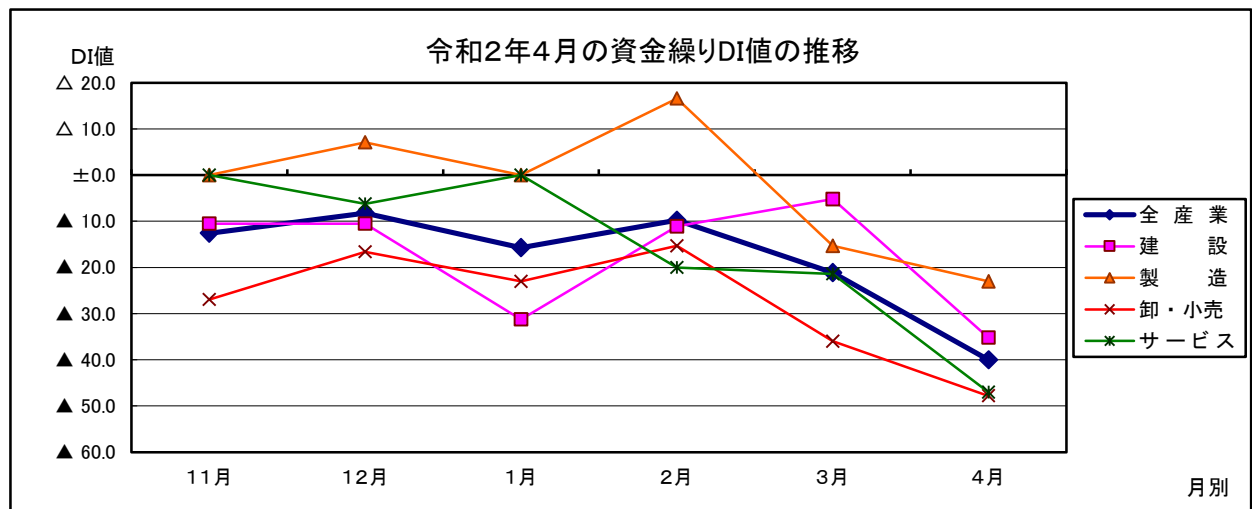
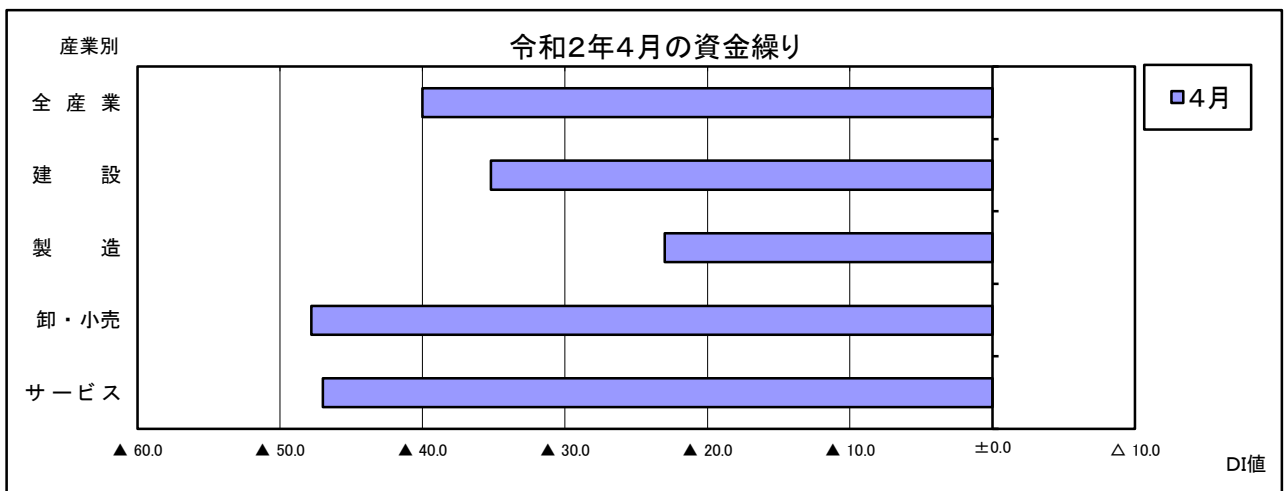
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲35.2(同▲5.2)、サービス業▲47.0(同▲21.4)、卸小売業▲47.8(同▲36.0)、製造業▲23.0(同▲15.3)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲54.2(前月水準▲36.6)となり、マイナス幅が17.6ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲47.0(同▲21.0)、卸小売業▲69.5(同▲52.0)、サービス業▲52.9(同▲35.7)、製造業▲38.4(同▲30.7)である。

令和2年4月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	令和元年 11月	12月	令和2年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲12.6	▲8.2	▲15.7	▲9.8	▲21.1	▲40.0	▲54.2(▲36.6)
建設	▲10.5	▲10.5	▲31.2	▲11.1	▲5.2	▲35.2	▲47.0(▲21.0)
製造	±0.0	△7.1	±0.0	△16.6	▲15.3	▲23.0	▲38.4(▲30.7)
卸・小売	▲26.9	▲16.6	▲23.0	▲15.3	▲36.0	▲47.8	▲69.5(▲52.0)
サービス	±0.0	▲6.2	±0.0	▲20.0	▲21.4	▲47.0	▲52.9(▲35.7)



【令和2年4月の調査結果のポイント】

《全産業DIは緊急事態宣言により大幅悪化。新型コロナウイルスの収束が見えず、さらに悪化を見込む》

4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲67.1(前月水準▲53.5)となり、マイナス幅が13.6ポイント拡大した。※リーマンショックの影響が残る平成21年11月(▲62.6)以来、10年5か月ぶりの▲60台となった。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲70.5(同▲31.5)、サービス業▲47.0(同▲35.7)、製造業▲69.2(同▲61.5)、卸小売業▲78.2(同▲76.0)である。

【建設業】からは、「新型コロナウイルスの影響はこれから出ると思う」(一般土木建築工事業)、「新型コロナウイルスで頭が痛い」(一般土木建築工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「一般製品は落ち込むも、ネット販売製品がカバーして売上を維持」(紙製容器製造業)、「テレワーク、アルコール消毒等、新型コロナウイルス対策は3月から継続実施」(織物業)、「新型コロナウイルスは知恵を絞るチャンスと考える」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「食品売上は大きく増加。刺身等は買い控えの傾向。葬儀やパーティー等の仕出し関連、花のような嗜好品も大きく減少。駅前店より郊外店が良好。不特定多数のお客様と接触するスタッフの疲労・感染が心配」(各種食料品小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「緊急事態宣言で企業活動はマヒし、人の動きも静止。世の流れが一変。経営志向を一考する時」(投資顧問)、「テナントの家賃減額に応えられるよう、市に固定資産税の減免を望む」(不動産賃貸業)、「徐々に新型コロナウイルスの影響が増しそう。仕掛の収益事業は遂行しているが、以降は様子見」(不動産賃貸・管理業)などのコメントが寄せられた。

◎新型コロナウイルスの影響

「一般家庭の工事は減少。空家工事は堅調」(畳工事請負・畳製造販売業)、「売上減少、採算悪化。緊急事態宣言解除後の見通しがつかめない」(電気工事業)、「売り出し、キャンペーン、イベント関係の仕事が全てキャンセル」(印刷業)、「緊急事態宣言が出て営業活動を自粛。仕入先や顧客の時短、交代勤務等により業務の支障が出てくることは間違いない。車検の延長や外出自粛要請によりエンドユーザーの動きが弱くなってきていて、今後の売上が鈍化しそう」(自動車付属品製造業)、「特に飲食店の酒類の消費量が減少」(酒類製造業)、「食品や日用品の客数は昨年より10%減。食品の買上数は120%と増加。衣料品は70%減。出勤できない従業員が増え、ギリギリの運営」(大型小売店)、「小・中・高校の休校で売上減少」(書籍・文房具小売業)、「百貨店としての社会的役割と従業員の安全確保のバランスを保ちながら、営業赤字を覚悟の上で食料品等、生活必需品の販売を維持。営業時間を短縮。派遣従業員の安全性も確保」(百貨店)、「大型店が休業している為お客様が流れてくるが、全体的な客足は遠のいている」(各種商品小売業)、「喫茶スペースの休業で売上が大幅ダウン」(洋菓子店)、「赤ワイン、白ワインは免疫力を高くする飲み物なのに、公言できない悔しさがある」(食料・飲料卸売業)、「休館や店舗縮小で売上激減」(洋菓子店)、「4月10日から休業中。新型コロナウイルスの影響は底が見えない」(花・植木小売業)、「入館者数、売上が対前年比70%減。営業時間やレストラン部門を短縮した。イベント、カラオケの中止等、密になりやすい所は閉鎖している」(公衆浴場業)、「売上は前年同月比40%減。持続化給付金の対象にならないが大幅な減少」(菓子・パン小売業)、「休業中の為、売上・収入共に大幅減」(各種商品小売業)、「自宅待機中の学生アルバイトが、今後戻るのが心配。『あすチケ』『#柏エール飯』を活用！『柏一小時りデジタル商店街』というサイトを5月の連休明けに立ち上げ予定」(酒場・ビヤホール)、「3月よりも業績悪化。飲食店のテイクアウト事業は単価が安く、売上は8~9割減になる予想」(日本料理)、「土日、夜9時以降の来店客は例年の半分まで減少。中華料理のデリバリーを始めるので良い影響が出れば」(食堂・レストラン)、「管理しているビルのメインテナントが破産宣告。同ビル内の別テナントからは家賃の値下げ要請。テナント入居募集に対しては反応がない」(不動産代理業・仲介業)、「時間の経過と共に問合せ、来店が急激に減少。お客様に安心してもらえるように感染症対策を実施」(不動産管理業)、「全体的に足踏み状態」(ソフトウェア業)との声が寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
11月	▲25.3	▲10.5	▲38.4	▲42.3	±0.0
12月	▲26.0	▲10.5	▲42.8	▲41.6	▲6.2
1月	▲17.1	▲31.2	▲14.2	▲26.9	△14.2
2月	▲33.8	▲33.3	▲25.0	▲38.4	▲33.3
3月	▲53.5	▲31.5	▲61.5	▲76.0	▲35.7
4月	▲67.1	▲70.5	▲69.2	▲78.2	▲47.0
見通し	▲72.8	▲82.3	▲61.5	▲78.2	▲64.7

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 64.2	▲ 67.1	▲ 67.1	▲ 68.5	▲ 22.8	▲ 24.2	▲ 4.2	▲ 7.1
建設	▲ 52.9	▲ 76.4	▲ 64.7	▲ 82.3	▲ 29.4	▲ 23.5	△ 23.5	△ 23.5
製造	▲ 69.2	▲ 53.8	▲ 61.5	▲ 61.5	▲ 38.4	▲ 23.0	△ 15.3	△ 7.6
卸・小売	▲ 78.2	▲ 78.2	▲ 82.6	▲ 82.6	▲ 21.7	▲ 30.4	▲ 26.0	▲ 26.0
サービス	▲ 52.9	▲ 52.9	▲ 52.9	▲ 41.1	▲ 5.8	▲ 17.6	▲ 17.6	▲ 23.5

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 67.1	▲ 72.8	▲ 40.0	▲ 54.2
建設	▲ 70.5	▲ 82.3	▲ 35.2	▲ 47.0
製造	▲ 69.2	▲ 61.5	▲ 23.0	▲ 38.4
卸・小売	▲ 78.2	▲ 78.2	▲ 47.8	▲ 69.5
サービス	▲ 47.0	▲ 64.7	▲ 47.0	▲ 52.9

令和2年4月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲67.1に対し、「CCI-LOBO」が▲60.4で柏の方がマイナス幅が6.7ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、建設業、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲64.2に対し、「CCI-LOBO」が▲55.6で柏の方がマイナス幅が8.6ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲67.1に対し、「CCI-LOBO」が▲54.6で柏の方がマイナス幅が12.5ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、建設業、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲22.8に対し、「CCI-LOBO」が▲19.6で柏の方がマイナス幅が3.2ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、製造業は10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲4.2に対し、「CCI-LOBO」が△0.8で柏の方がプラス幅が5.0ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は製造業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、卸小売業、サービス業は10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲40.0に対し、「CCI-LOBO」が▲37.8で柏の方がマイナス幅が2.2ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業であり、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業であり、建設業は10ポイント以上悪い。

【令和2年4月業種別業界内トピックス】

業種別	概況	トピック	業種
建設業	新型コロナウイルスの影響がこれから出てくると思う。	新型コロナウイルス 先行き不透明	一般土木建築工事業
	新型コロナウイルスの影響で一般家庭の工事は減少。空家工事は堅調。	新型コロナウイルス	畳工事請負・畳製造販売業
	新型コロナウイルスで頭が痛い。	新型コロナウイルス	一般土木建築工事業
	新型コロナウイルスの影響大きく、売上減少、採算悪化。緊急事態宣言終息後の見通しがつかぬ。	新型コロナウイルス	電気工事業
製造業	新型コロナウイルス対策は3月から引き続き実施。(テレワーク・時差出勤・セミナー等参加自粛・出社前の体温測定・電車・バス通勤者は希望により自家用車で出勤可・マスク着用・手洗い・アルコール消毒・来場者への検温、体調の問診)	新型コロナウイルス	織物業
	売り出し、キャンペーン、イベント関係の仕事が全てキャンセルになった。	新型コロナウイルス	印刷業
	緊急事態宣言が出て営業活動を自粛。仕入先や顧客の時短、交代勤務等により業務の支障が出てくることは間違いない。車検の延長や外出自粛要請によりエンドユーザーの動きが弱くなってきていて、今後の売上が鈍化しそう。	新型コロナウイルス	自動車付属品製造業
	新型コロナウイルスの影響で、特に飲食店での酒類消費量が減少。	新型コロナウイルス	酒類製造業
	新型コロナウイルスの影響を受けて一般製品は落ち込むも、ネット販売製品がカバーして売上を維持している。	新型コロナウイルス	紙製容器製造業
	新型コロナウイルスの体験は、知恵を絞るチャンスとして鑑みる。	新型コロナウイルス 経営再考チャンス	印刷業
卸・小売業	食品や日用品の客数は昨年より10%減。食品は1人当たりの買い上げ点数は120%と増加している。衣料品は70%減と非常に厳しい状況。学生アルバイト、子供を保育園等に預けている従業員、高齢の従業員等、出勤できない従業員が増え、ギリギリの運営状況。	新型コロナウイルス	大型小売店
	4、5月は例年の通り売上減少。特に今年は小中高の休校で減少した。	売上減少 新型コロナウイルス	書籍・文房具小売業
	百貨店としての社会的役割と従業員の安全確保のバランスを保ちながら、営業赤字を覚悟の上で食料品等、生活必需品の販売を維持。営業時間を短縮。派遣従業員の安全性も確保している。	新型コロナウイルス	百貨店
	1ヶ月の自粛は死活問題。大型店が休業の為多少は流れてくるが、全体的に客足は遠のいている。	新型コロナウイルス	各種商品小売業
	新型コロナウイルスによる自粛要請に伴い、食品売上は大きく増加。刺身等は買い控えの傾向。葬儀やパーティー等の仕出し関連、花のような嗜好品も大きく減少。駅前店より郊外店が良好。不特定多数のお客様と接触するスタッフの疲労・感染が心配。	新型コロナウイルス	各種食料品小売業
	緊急事態宣言発令後、喫茶スペースを休業した為、売上が大幅ダウン。同月前年比を大きくマイナス。	新型コロナウイルス	洋菓子店
	とても厳しい状況。赤ワイン、白ワインは免疫力を高くする飲み物なのにあまり公言できない悔しさがある。	新型コロナウイルス	食料・飲料卸売業
	3店舗の内1店舗が休館、1店舗が縮小で売上激減。新型コロナウイルスの影響が大変。	新型コロナウイルス	洋菓子店
	4月10日から休業中。新型コロナウイルスの影響は底が見えない。	新型コロナウイルス 先行き不透明	花・植木小売業
	新型コロナウイルスの影響により、入館者数、売上が対前年比70%減。営業時間、レストラン部門を短縮した。イベント・カラオケは中止し、密になりやすい所は閉鎖している。	新型コロナウイルス	公衆浴場業
	売上前年同月比40%減。持続化給付金の対象にならないが大幅な減少。	新型コロナウイルス	菓子・パン小売業
	新型コロナウイルスの影響で4月8日より休業中の為、売上・収入共に大幅減。	新型コロナウイルス	各種商品小売業
サービス業	自宅待機中の学生アルバイトが、今後戻るのか心配。「あすテケ」「#柏エール飯」を活用！「柏一小通りデジタル商店街」というサイトを5月の連休明けに立ち上げ予定。	新型コロナウイルス テイクアウト	酒場・ビヤホール
	新型コロナウイルスの影響で、4月の業績は3月よりも悪化。テイクアウトの単価は安く、売上は8、9割減の予想。	新型コロナウイルス	日本料理
	新型コロナウイルスによる外出自粛影響で、土日、夜9時以降の来店客は例年の半分まで減少。営業時間の短縮も検討。デリバリーを始めるので良い影響が出れば。	新型コロナウイルス	食堂・レストラン
	緊急事態宣言で完全に企業活動はマヒし、人の動きが静止し世の流れが一変。リーマンショックと対比できない経済の奥深さに驚愕する。経営志向の一考の時か。	新型コロナウイルス	投資顧問
	管理しているビルのメインテナントが破産宣告。同ビル内の別テナントからは家賃の値下げ要請。テナント入居募集に対しては反応がない。	新型コロナウイルス	不動産代理業・仲介業
	時間の経過と共に問合せ、来店が急激に減少。お客様に安心してもらえるように感染症対策を実施する。	新型コロナウイルス	不動産管理業
	ビル賃貸業の為にテナントの家賃減額にこたえられるように、市に固定資産税の減免を求める。	新型コロナウイルス 減免要請	不動産賃貸業
徐々に新型コロナウイルスの影響が増しそう。仕掛の収益事業は遂行しているが、以降は様子見。	新型コロナウイルス	不動産賃貸・管理業	
全体的に足踏み状態。	新型コロナウイルス	ソフトウェア業	











◎新型コロナウイルスの影響











「一般家庭の工事は減少。空家工事は堅調」(畳工事請負・畳製造販売業)、「売上減少、採算悪化。緊急事態宣言解除後の見通しがつかめない」(電気工事業)、「売り出し、キャンペーン、イベント関係の仕事が全てキャンセル」(印刷業)、「緊急事態宣言が出て営業活動を自粛。仕入先や顧客の時短、交代勤務等により業務の支障が出てくることは間違いない。車検の延長や外出自粛要請によりエンドユーザーの動きが弱くなってきていて、今後の売上が鈍化しそう」(自動車付属品製造業)、「特に飲食店の酒類の消費量が減少」(酒類製造業)、「食品や日用品の客数は昨年より10%減。食品の買上数は120%と増加。衣料品は70%減。出勤できない従業員が増え、ギリギリの運営」(大型小売店)、「小・中・高校の休校で売上減少」(書籍・文房具小売業)、「百貨店としての社会的役割と従業員の安全確保のバランスを保ちながら、営業赤字を覚悟の上で食料品等、生活必需品の販売を維持。営業時間を短縮。派遣従業員の安全性も確保」(百貨店)、「大型店が休業している為お客様が流れてくるが、全体的な客足は遠のいている」(各種商品小売業)、「喫茶スペースの休業で売上が大幅ダウン」(洋菓子店)、「赤ワイン、白ワインは免疫力を高くする飲み物なのに、公言できない悔しさがある」(食料・飲料卸売業)、「休館や店舗縮小で売上激減」(洋菓子店)、「4月10日から休業中。新型コロナウイルスの影響は底が見えない」(花・植木小売業)、「入館者数、売上が対前年比70%減。営業時間やレストラン部門を短縮した。イベント、カラオケの中止等、密になりやすい所は閉鎖している」(公衆浴場業)、「売上は前年同月比40%減。持続化給付金の対象にならないが大幅な減少」(菓子・パン小売業)、「休業中の為、売上・収入共に大幅減」(各種商品小売業)、「自宅待機中の学生アルバイトが、今後戻るのが心配。「あすチケ」「#柏エール飯」を活用！「柏一小通りデジタル商店街」というサイトを5月の連休明けに立ち上げ予定」(酒場・ビヤホール)、「3月よりも業績悪化。飲食店のテイクアウト事業は単価が安く、売上は8~9割減になる予想」(日本料理)、「土日、夜9時以降の来店客は例年の半分まで減少。中華料理のデリバリーを始めるので良い影響が出れば」(食堂・レストラン)、「管理しているビルのメインテナントが破産宣告。同ビル内の別テナントからは家賃の値下げ要請。テナント入居募集に対しては反応がない」(不動産代理業・仲介業)、「時間の経過と共に問合せ、来店が急激に減少。お客様に安心してもらえるように感染症対策を実施」(不動産管理業)、「全体的に足踏み状態」(ソフトウェア業)との声が寄せられた。











令和2年4月の木の景気天気図











木の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較











景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 67.1	 ▲ 70.5	 ▲ 69.2	 ▲ 78.2	 ▲ 47.0
CCI-LOBO	 ▲ 60.4	 ▲ 29.3	 ▲ 63.2	 ▲ 64.0	 ▲ 71.2

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 64.2	 ▲ 52.9	 ▲ 69.2	 ▲ 78.2	 ▲ 52.9
CCI-LOBO	 ▲ 55.6	 ▲ 25.9	 ▲ 56.7	 ▲ 59.9	 ▲ 67.8

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 67.1	 ▲ 64.7	 ▲ 61.5	 ▲ 82.6	 ▲ 52.9
CCI-LOBO	 ▲ 54.6	 ▲ 27.0	 ▲ 55.4	 ▲ 59.9	 ▲ 65.6

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 22.8	 ▲ 29.4	 ▲ 38.4	 ▲ 21.7	 ▲ 5.8
CCI-LOBO	 ▲ 19.6	 ▲ 32.7	 ▲ 21.6	 ▲ 18.8	 ▲ 10.8

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 4.2	 23.5	 15.3	 ▲ 26.0	 ▲ 17.6
CCI-LOBO	 0.8	 26.2	 ▲ 10.8	 3.7	 ▲ 6.7

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 40.0	 ▲ 35.2	 ▲ 23.0	 ▲ 47.8	 ▲ 47.0
CCI-LOBO	 ▲ 37.8	 ▲ 15.2	 ▲ 35.8	 ▲ 45.5	 ▲ 49.8

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(4月速報)

調査期間：2020年4月14日～20日

調査対象：全国の336商工会議所が2,709企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、2カ月連続で大幅悪化。先行きも新型コロナウイルスにより厳しい見通し

4月の全産業合計の業況DIは、▲60.4と、前月から▲11.4ポイントの悪化。新型コロナウイルスの流行拡大に伴う緊急事態宣言の発令以降、外出自粛や消費マインドの低下、イベント等の中止などによる一段の売上減少。営業時間の短縮や休業を実施する企業もみられたサービス業や小売業で景況感が大幅に悪化。また、新型コロナウイルスの収束が見通せない中、生産・設備投資などの計画見直しやサプライチェーンの停滞による部材等の調達難など、生産活動への影響が拡大していることなどが下押しし、中小企業の景況感は、リーマンショックの影響が残る2010年1月(▲62.3)以来、10年3カ月ぶりの▲60台となった。

先行きについては、先行き見通しDIが▲71.1(今月比▲10.7ポイント)と悪化を見込む。新型コロナウイルス

イルスの世界的な流行の影響によって、ゴールデンウィークにおける観光需要の急減や、サプライチェーンの停滞、生産活動への影響の長期化を懸念する声に加え、企業や消費者のマインドの低迷、資金繰りの急激な悪化などにより、中小企業の業況感は、調査開始以来最悪となったリーマンショック後の2009年2月(▲73.4)に迫る厳しい見通し。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

産業別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、全ての業種で悪化した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「新型コロナウイルスの収束が見通せないため、契約直前だった顧客の新規工事が延期となったほか、緊急事態宣言を受けて、都内の設計事務所が5月6日まで休業を決定したことから既存案件の工期にも影響が出ている」(一般工事業)、「老人ホームや病院等の

塗装工事の延期が発生。また、1000万円を超える改修工事の案件もあったが、新型コロナウイルスの影響により部材の調達が困難になったことから中止を決定した」(塗装工事業)

【製造業】「外出自粛の動きが広がり、宅食事業者向けや量販店向けの受注は堅調だが、外食産業や給食関連の引き合いが軒並み悪化している」(水産食品品製造業)、「自動車メーカーが国内外の工場の稼働を停止した影響により、受注が減少。先行きが見通せず、新規採用を行いたかったが、踏み切れない」(工業用プラスチック製品製造業)

【卸売業】「ゴールデンウィークに備え、5月までキャンセルなどホテル用アメニティの在庫を積み増していたが、新型コロナウイルスの影響により休業を決めたホテルもあり、引き合いが急減。在庫品の支払いにより資金繰りが厳しくなっている」(化粧品卸売業)、「飲食業向けなどの水産加工品の受注が落ち込んだことと在庫過剰となり、賞味期限切れによる廃棄も発生している。また、中国やヨーロッパ、南米から輸入している商材では入荷の見通しが立たず、今後、価格高騰が懸念される」(食料品卸売業)

パ、南米から輸入している商材では入荷の見通しが立たず、今後、価格高騰が懸念される」(食料品卸売業)

【小売業】「菓こもり消費の拡大により、食料品や酒類などを買いためする消費者が増加し、売れ行きは堅調。他方で、新型コロナウイルスの収束が見通せない中、日持ちする食料品やインスタント・レトルトなどの需要増により品薄が懸念される」(スーパー)、「4月は入学式や各種イベントなどにより一年で一番の繁忙期だが、中止や縮小が相次ぎ、売上がほぼない状況に陥っている」(菓子小売店)

【サービス業】「取引先で出荷・入荷の停止や延期が発生し、荷動きが鈍い。また、一部では休業した顧客もあり、売上が減少している」(運送業)、「宴会や法要などのキャンセルが相次ぎ、売上は6割減。本来なら4月から観光シーズンに入るが、一段の売上減少が見込まれる。先行きについても、夏季の実業団や大学の合宿利用への影響が懸念される」(飲食業)

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
11月	▲26.8	▲6.9	▲28.5	▲29.4	▲42.4	▲23.8
12月	▲29.4	▲12.8	▲35.8	▲31.4	▲40.4	▲23.9
1月	▲26.8	▲10.4	▲31.1	▲28.9	▲38.0	▲23.4
2月	▲32.6	▲13.0	▲41.5	▲37.5	▲39.5	▲28.6
3月	▲49.0	▲18.6	▲51.7	▲53.1	▲58.9	▲55.8
4月	▲60.4	▲29.3	▲63.2	▲66.7	▲64.0	▲71.2
見通し	▲71.1	▲49.9	▲74.4	▲74.3	▲73.5	▲77.9

